

FOR IMMEDIATE RELEASE

<プレス・リリース>

2022 年 8 月 25 日

プレス担当：

マリカ・絵美：(EMarica@japansociety.org)

アリソン・ロッドマン (ARodman@japansociety.org)

ジャパン・ソサエティー（JS） 舞台公演部 2022-2023 年度シーズン・ラインアップ

ジャパン・ソサエティー(JS)舞台公演部は、2022 年秋～2023 年初夏の新シーズン・ラインナップを発表しました。昨シーズンに引き続き全てのプログラムを劇場でのライブ公演とし、《日本人と非日本人との協働による創造》に焦点をあてたダイナミックな構成となっています。

シーズンのオープニングを飾るのは、オペラ『班女』（作曲：細川俊夫<2004 年>、原作：三島由紀夫の『近代能楽集』より）の北米初演に先駆けてのスペシャル・アーティスト・トーク（9 月 14 日）です。カタパルト歌劇団（Catapult Opera）による N Y U スカーボール劇場でのプロダクションの中から一アリアが披露されると共に、クリエイターたちが同オペラの魅力を語ります。続いて、ニューヨークを拠点に活躍するアーティスト、菊池麻衣子とスペンサー・ロットによる『9000 のペーパー・バルーンズ』（10 月 28 日～30 日）では、第二次世界大戦中、日本がアメリカに放った秘密作戦を軸に、日本人とアメリカ人それぞれのアーティストの視点からパペットの世界を通して物語を伝えます。11 月には、世界的に活躍する人形劇アーティスト、バジル・ツイストを招いて、ロンドンで世界初演を迎える舞台版『となりのトトロ』の舞台裏を特別に語ってもらいます（11 月 10 日）。年内のプログラムを締めくくるのは、喜多流による古典の能の公演です（12 月 1 日～3 日）。2016 年の公演でも好評を博した喜多流の能楽師たちが、日本でも上演されることが稀な楊貴妃の健康回復を語る『皇帝』と、長寿を寿ぐ『枕慈童』の 2 作品を披露し、パンデミックという世界的危機からの早期復活を祈念します。

2023 年 1 月、新年を祝う最初のプログラムは、JS の委嘱による新作オペラ『note to a friend』の世界初演です（1 月 12 日、14 日、15 日）。芥川龍之介のテキストをベースに、作曲をピューリッツァー賞受賞作曲家デヴィッド・ラングが、演出をパリ在住の笈田ヨシが手掛けるこの現代オペラは、日本における西洋音楽の殿堂、東京文化会館との共同制作です。続いて 2 月のプログラムは、同じく芥川龍之介の複数の短編小説をベースとした『AKUTAGAWA』です（2 月 23 日～25 日）。八王子車人形の五代目家元西川古柳と、ニューヨークとシカゴを拠点に活躍する人形劇アーティストのトム・リーが、芥川の書に潜む人間の心理を人

形劇という伝統的なフォーマットを通して表現します。おなじみの現代日本戯曲・英語版リーディング・シリーズでは、第 17 弾として『**わかるうとはおもっているけど**』を紹介します（3 月 13 日）。新進気鋭の演劇人・山田由梨による男女の性差をテーマにした戯曲を、演出家エヌジェイ・アグウナがリーディング公演としてアメリカの観客に届けます。本シーズンの最後を締めくくるのは、制作過程の貴重なプロセスを「ワーク・イン・プログレス」公演として紹介するコンテンポラリー・ダンス、『**エクステンクション・リチュアルー絶滅の儀式**』です（6 月 9 日・10 日）。ブルックリンを拠点に、舞踏のトレーニングに立脚した作品作りで知られるカンパニー、LEIMAY（レイメイ）が、同じく在ブルックリンのミュージシャン渡辺薫ほか複数のアーティストと協働して練り上げる作品です。

ジャパン・ソサエティー芸術監督の塩谷陽子は、本シーズンのラインナップについて次のように語っています。「日本人と非日本人のアーティストたちが、日本の文学、日本の歴史、日本の習慣など《日本独自》の要素に立脚しながらも、それぞれが対等に各自固有のアイディアを持ち寄り切磋琢磨するという過程を以て生まれた素晴らしいプロジェクトの数々で構成されています。こうした贅沢なまでにエキサイティングなプログラムを、ニューヨークの観客に生の舞台として届けられることは本当に嬉しいことです」。

各プログラムの詳細は下記をご参照ください。

講演 & 音楽 **スペシャル・アーティスト・トーク：オペラ『班女』**

（作曲：細川俊夫、原作：三島由紀夫）

登壇：ニール・ゴレン（指揮者、カタパルト歌劇団・創立者）、ルカ・ベジェッティ（演出家）他

【2022 年 9 月 14 日】

演劇 **現代人形劇『9000 のペーパー・バルーンズ』**

構想・人形制作・出演：菊地麻衣子、スペンサー・ロット 演出：アヤ・オガワ

【2022 年 10 月 28 日～30 日】

講演 **スペシャル・アーティスト・トーク：舞台版『となりのトトロ』を語る**

登壇：バジル・ツイスト

【2022 年 11 月 10 日】

古典芸能 **能：喜多流 『皇帝』・『枕慈童』**

出演：友枝昭世、友枝雄人、中村邦生 他

【2022 年 12 月 1 日～3 日】

オペラ

新作オペラ『note to a friend』

《世界初演》 ジャパン・ソサエティー x 東京文化会館 日米共同制作作品

作曲：デヴィッド・ラング、演出：笈田ヨシ

【2023年1月12日、14日、15日】 《PROTOTYPE Festival 2023 参加作品》

人形劇

『AKUTAGAWA』

構成・演出・出演：八王子車人形西川古柳座五代目家元・西川古柳、トム・リー

【2023年2月23日～25日】

演劇

現代日本戯曲: 英語版リーディング・シリーズ第17弾 『わかれうとはおもっているけど』

《北米初演》 作：山田由梨 演出：エヌジェイ・アグウナ

【2023年3月13日】

コンテンポラリー・ダンス

ワーク・イン・プログレス公演『エクステンクション・リチュアル-絶滅の儀式』

構想・振付・演出：ヒメナ・ガルニカ (LEIMAY)、シゲ・モリヤ (LEIMAY)

作曲：渡辺薫 出演：LEIMAY (レイメイ) アンサンブル

【2023年6月9日・10日】

会場： 全公演と全関連イベントはジャパン・ソサエティー館内(333 East 47th Street)にて開催。

チケット情報： チケットに関する問い合わせや、公演の詳細は www.JapanSociety.org/performingarts をご覧ください。または、電話：212-715-1258 まで。

【JS 舞台公演部 2022 年—2023 年度 プログラム詳細】

講演&音楽

スペシャル・アーティスト・トーク：オペラ『班女』

登壇：ニール・ゴレン（指揮者、カタパルト歌劇団・創立者）、ルカ・ベジエッティ（演出家）

オペラ『班女』 作曲：細川俊夫 原作：三島由紀夫

Exclusive Artist Conversation: Talk & Live Music: Yukio Mishima's *Hanjo*, Opera Composed by Toshio Hosokawa

日時： 9月14日(水) 午後6時30分

チケット料金：一般 15 ドル／JS 会員 12 ドル

日本を代表する作曲家のひとり、細川俊夫作曲のオペラ『班女』が、ニューヨーク大学内スカーボールセンターで北米初演（9 月 30 日～10 月 2 日）を迎えるのに先駆けて、指揮者と演出家を招いたアーティスト・トークと抜粋の実演を披露します。本オペラは、三島由紀夫の『近代能楽集』に収録された戯曲『班女』を原作としており、2004 年に初演されて以来、世界各地で上演されてきました。本プログラムでは、今回のプロダクションを制作した在ニューヨークのカタパルト歌劇団の創立者・指揮者のニール・ゴレンと、演出を手掛けるルカ・ベジェッティが、制作過程でのインスピレーションや課題などについて意見を交わすほか、三島の傑作をオペラ作品として書き上げた過程を、細川がビデオ（事前収録）で語ります。また、冒頭では日本文学を専門とする内藤諭子教授による三島の原作の紹介を行い、最後は本オペラの出演者がアリアを特別に歌唱します。

演劇

現代人形劇『9000 のペーパー・バルーンズ』

構想・人形制作・出演：菊地麻衣子、スペンサー・ロット、演出：アヤ・オガワ

Contemporary Puppet Theater: 9000 Paper Balloons

日時： 10 月 28 日 (金) 午後 7 時 30 分 (終演後に「MetLife Meet-the-Artists レセプション」あり)

10 月 29 日 (土) 午後 7 時 30 分 (終演後に「アーティスト Q&A」あり)

10 月 30 日 (日) 午後 3 時

チケット料金：一般 30 ドル／JS 会員 24 ドル

第二次世界大戦終盤、日本軍は和紙で作られた気球に爆弾を吊り下げた「風船爆弾」を製造し、アメリカ本土へ放ちました。『9000 のペーパーバルーンズ』ではこの歴史を軸に、日本とアメリカそれぞれの視点から“距離”をテーマとした物語—二人の友人、二つの敵国同士、二つの文化、二つの世代間の“距離”—を展開します。在ニューヨークの日本人人形劇アーティスト、菊池麻衣子と、舞台から TV や映像まで様々なメディアで人形劇アーティストとして活躍するアメリカ人アーティスト、スペンサー・ロットのコラボレーションにより、アーティストたち自らの家族のエピソードも盛り込みながら、アニメーションやマスク、パペット、ライブ・ビデオ等複数の手法を融合して日本とアメリカの物語を伝えます。また、昨シーズン JS での『The Nosebleed-鼻血』初演が大成功を収めた劇作家・演出家のアヤ・オガワが、本作の演出を手掛けます。

講演

スペシャル・アーティスト・トーク：舞台版『となりのトトロ』を語る

登壇：バジル・ツイスト

Exclusive Artist Conversation: A Behind-the-scene Look at the Live Staging of My Neighbour Totoro, with Basil Twist

日時： 11 月 10 日 (木) 午後 6 時 30 分

チケット料金： 一般 20 ドル／JS 会員 16 ドル

世界中で圧倒的な人気を誇るスタジオジブリの『となりのトトロ』。今秋10月、Improbableと日本テレビの共同制作、ロイヤル・シェイクスピア・カンパニーの主催で、この人気アニメがロンドンのバービカンで舞台化・上演されます。舞台版のパペットを手掛けるのは、人形劇アーティストとして国際的に活躍するバジル・ツイスト。ツイストは、「人形劇」の定義を超えた画期的な舞台表現に定評があり、これまでに88枚の屏風の変化によって綴られる作品（『Dogugaeshi（道具返し）』・JS委嘱）や、水槽の中で布が踊る作品（『Symphonie Fantastique』）、最近では岩もどきの怪物表現（『Book of Mountains & Seas』）などで観客を驚かせています。そのツイストが特別に、誰にも愛されるキャラクター、トトロや猫バスを生舞台でどう表現してみせるのか---制作の裏側を語ります。

古典芸能

能：喜多流 『皇帝』・『枕慈童』

出演：友枝昭世、友枝雄人、中村邦生 ほか

Traditional Noh Theater: Kotei (The Emperor) / Makura Jido (Chrysanthemum Boy)

日時： 12月1日(木) 午後7時30分・プログラムA (終演後にソワレあり)

12月2日(金) 午後7時30分・プログラムB (終演後に「アーティストQ&A」あり)

12月3日(土) 午後7時30分・プログラムA

プログラムA：『皇帝』

プログラムB：『枕慈童』

両プログラムともに日本語での上演・英語字幕付き

チケット料金：パフォーマンス+ソワレ（12月1日のみ）一般95ドル／JS会員76ドル

パフォーマンスのみ（全日程）一般72ドル／JS会員58ドル

2016年の公演でも好評を博した、長い歴史と伝統を誇る喜多流による今回の能公演では、日本でも上演されることが稀な病気回復をテーマとした『皇帝』と、長寿と健康を寿ぐ『枕慈童』の2作品を披露します。

『皇帝』は、玄宗皇帝が大病の楊貴妃の容態を案じているところに鍾馗の神霊が現れ、病鬼を追い払い、妃の病を治すという物語。一方、同じく中国を舞台する『枕慈童』は、菊の葉から滴る露を飲むことで700年も若い姿のまま山奥に住み続けているという少年の伝説にまつわる、不老長寿をテーマとした作品です。パンデミックという世界的危機からの早期復活を祈念し、この2本の古典の能作品を2022年を締めくくる作品としてプログラムしました。重要無形文化財（人間国宝）に認定されているシテ方・友枝昭世をはじめとする精鋭の喜多流の能楽師たちが、ユネスコ無形文化遺産に指定されている日本の誇る伝統芸能を、圧倒的な迫力でお届けします。

なお、各公演の1時間前にはプリンストン大学のトム・ヘア教授によるプレパフォーマンス・レクチャーを実施します（公演のチケット購入者は無料で参加いただけます）。

【関連イベント】

- ・12月3日(土) 午前11時～午後1時：喜多流のメンバーによる能の所作のワークショップ

オペラ

《世界初演》 新作オペラ『note to a friend』

ジャパン・ソサエティーと東京文化会館との日米共同委嘱・制作作品

作曲：デヴィッド・ラング、演出：笈田ヨシ

《PROTOTYPE Festival 2023 参加作品》

World Premiere / Contemporary Opera: note to a friend, commissioned by Japan Society, co-produced with Tokyo Bunka Kaikan

日時： 1月12日(木) 午後7時30分 (終演後に「MetLife Meet-the-Artists レセプション」あり)

1月14日(土) 午後7時30分 (終演後に「アーティスト Q&A」あり)

1月15日(日) 午後3時

チケット料金： 一般 60ドル／JS会員 48ドル

ピューリッツァー賞受賞作曲家、デヴィッド・ラングへの委嘱という形で実現した本作は、芥川龍之介の3つのテキスト（『或る友人へ送る手記』、『点鬼簿』、『藪の中』）がベースとなっています。死、愛、自殺への人間の執着といった複雑なテーマをラング自らがリブレットを手掛け、「悲劇」を扱う因習的なオペラとは一線を画した切り口で創り上げます。演出は、故ピーター・ブルックの国際演劇研究センターの長年の主力メンバーで、ここ20年はオペラの演出家として特に欧州で人気の高い笈田ヨシが手掛けます。出演はニューヨークを拠点に欧米で活躍するボーカリスト、セオ・ブレックマンがソロの歌唱で芥川の心情を歌い上げ、演奏は東京文化会館により選出された新進気鋭の日本人ミュージシャンが弦楽四重奏団を構成します。日本における西洋音楽の殿堂、東京文化会館との共同制作である本作は、高い評判を誇る実験的オペラのフェスティバル「PROTOTYPE」の2023年のフェスティバル・プログラムの一環としてJSで世界初演され、続いて2月4日～5日に東京文化会館にて日本初演となります。

人形劇

『AKUTAGAWA』

構成・演出・出演：八王子車人形西川古柳座五代目家元・西川古柳、トム・リー

Contemporary and Traditional Puppet Theater: AKUTAGAWA

日時： 2月23日(木) 午後7時30分 (終演後に「MetLife Meet-the-Artists レセプション」あり)

2月24日(金) 午後7時30分 (終演後に「アーティスト Q&A」あり)

2月25日(土) 午後7時30分

チケット料金： 一般 30ドル／JS会員 24ドル（13歳以上推奨）

文豪・芥川龍之介は、日本の短編小説の父とも言われるほど傑出した短編を多く残しましたが、本公演はその芥川による5つの著名な短編—『羅生門』、『地獄変』、『竜』、『杜子春』、『河童』—を紡いだもの。各ストーリーをつなぐ中で、芥川の作家としての洞察力や一個人としての不安定な精神世界を描き出します。八王子車人形・五代目家元西川古柳とアメリカ人パペット・アーティスト、トム・リーのコラボレーションにより、伝統的な車人形のスタイルとビデオアートを融合。ニューヨーク・ダウントウンの音楽シーンで長年活躍する辻幸生のライブ・ミュージックも加わり、ダイナミックなステージをお届けします。

【関連イベント】

- ・2月24日(金) 午前11時～午後1時：車人形マスタークラス
- ・2月25日(土) 午前10時30分～午後12時：車人形ファミリーワークショップ

演劇

現代日本戯曲: 英語版リーディング・シリーズ第17弾

『わかれとうちはおもっているけど』

《北米初演》 作：山田由梨、演出：エヌジェイ・アグウナ

Contemporary Theater: 17th Installment of Japan Society's Play Reading Series: **Contemporary Japanese Plays in English Translation / I'm Trying to Understand** **You But...**

日時：3月13日(月) 午後7時30分 (終演後「アーティスト Q&A」あり)

チケット料金：一般 15 ドル / JS 会員 12 ドル

JS による日本の優れた戯曲を米国で紹介するプレイ・リーディング・シリーズ。その第17弾となる本プログラムは、

岸田國士戯曲賞候補に2度輝く山田由梨による『わかれとうちはおもっているけど』。物語はテルとこうちゃんという、ごく普通と思える若いカップルの関係を軸とし、ある時テルの妊娠が分かったことをきっかけに、二人の間の空気が変わっていきます。男女の差や分かり合うということをテーマに、友人や二人のメロイを巻き込んでストーリーは展開していきます。フェミニズムについて思考する山田が男女の性差をテーマにしたこの戯曲の英語版を、2022年度バーバラ・ウィットマン・アワードに輝いたエヌジェイ・アグウナが北米初演として演出します。

コンテンポラリー・ダンス

ワーク・イン・プログレス公演 『エクステンクション・リチュアル - 絶滅の儀式』

構想・振付・演出：ヒメナ・ガルニカ（レイメイ）、シゲ・モリヤ（レイメイ）

作曲：渡辺薫、出演：LEIMAY（レイメイ）アンサンブル

Work-in-Progress Presentation / Contemporary Dance: Extinction Rituals

日時：6月9日(金) 午後7時30分 (終演後に「MetLife Meet-the-Artists レセプション」あり)

6月10日(土) 午後7時30分 (終演後に「アーティスト Q&A」あり)

チケット料金：一般 20 ドル / JS 会員 16 ドル

ブルックリンを拠点に舞踏に立脚したダンス作品を作る二人組アーティスト、ヒメナ・ガルニカとシゲ・モリヤ。彼らの率いるアンサンブル「LEIMAY（レイメイ）」による最新プロジェクトの貴重な制作過程を「ワーク・イン・プログレス」公演として披露します。ガルニカとモリヤが構成・演出・振付・デザインを手掛ける本作は、ムーブメント、照明、音楽など様々な要素からなるマルチメディアの作品で、二人の故郷と呼べる京都、ボゴタ、ニューヨークという3都市にかつて存在していた動植物やその環境の絶滅・消滅の

記憶がテーマです。また、アカデミー賞ノミネート経験歴を持つ作曲家・ミュージシャンの渡辺薫による邦楽器を用いたの東西融合のオリジナル・スコアや、コロンビア人歌手のキャロライナ・オリベロスが、LEIMAY アンサンブルのダンサーらの身体表現に一層の深みを与えます。

取材申し込み

上記公演およびワークショップの取材をご希望の方は、事前に必ずプレス担当：マリカ/ロッドマンまでEメールで(EMarica@japansociety.org / ARodman@japansociety.org) お申し込み下さい。尚、プレス席には限りがございます。満席の場合はご容赦下さい。

JS 舞台公演部について：

JS 舞台公演部は、1953年の創部以来、雅楽・能・歌舞伎・人形劇・三味線や落語などの古典芸能から最先端の現代劇、実験音楽やポップ・ミュージック、コンテンポラリー・ダンスまで、あらゆるジャンルの舞台公演を企画し、当館内劇場にて主催・上演。これまで700種に近いプログラムを米国の観客に紹介してきました。また、招聘したアーティストや団体のために巡回公演（ツアー）をプロデュースすることで、ニューヨークを越えた北米全土に対して日本の舞台芸術を紹介する役割をも果たしています。日本の優秀な若手アーティストにとっては国際的キャリアの登竜門として、また米国人アーティストには新作委嘱や交換レジデンシーなどを通じてより深い日本理解の機会を与える貴重な機関として、日米の舞台芸術界に比類のない貢献をしています。

JSについて：

JSは、日本の芸術、文化、ビジネス、社会をニューヨーク及び世界の人々とつなぐ全米随一の規模を誇る日米交流団体であり、芸術と文化、公共政策、ビジネス、サステナビリティ、教育における革新的なプログラムを通じて、ニューヨーク市歴史的保存建築に指定されているJS本部ビルからだけでなく、オンライン形式でも発信しています。1907年以来、JSでは「きずな（絆）」の考えのもとに、革新的な次世代クリエイターの支援、日米相互理解の促進、日本の多様性を深く理解しようと願う世界の人々にとって信頼できる案内役となること、そして日米間の相互理解の促進と絆を深めることを目指しています。拠点とするニューヨーク市でのつながりを一層強化することに加え、米国内外での新たな架け橋の構築にも取り組んでいます。詳細は www.japansociety.org をご覧ください。

公式 SNS アカウント：

Facebook：facebook.com/japansociety

Instagram：[@japansociety](https://www.instagram.com/japansociety) and #japansociety

Twitter : [@japansociety](https://twitter.com/japansociety) (英語)

その他、詳しい情報は弊社ウェブサイト <http://www.japansociety.org> をご参照ください。

2022-2023 年度の JS 舞台公演部は、
以下の財団・基金・企業および個人より支援・後援をいただいています。

筆頭支援企業
MetLife Foundation

The New York City Department of Cultural Affairs in partnership with the City Council and the New York State Council on the Arts with the support of the Office of the Governor and the New York State Legislature.

支援者・支援団体
Howard Gilman Foundation, Doug and Teresa Peterson.
Endowment support from the Lila Wallace-Reader's Digest Endowment Fund
and the Endowment for the Performing Arts, established with a leadership gift
from the Doris Duke Charitable Foundation.

その他の支援
Dr. and Mrs. Carl F. Taeusch II, Dr. Jeanette C. Takamura, Estate of Alan M. Suhonen, Susan McCormac, Sarah Billingham Solomon and Howard Solomon, Nancy and Joe Walker, Dr. John K. Gillespie, Paula S. Lawrence, Hiroko Onoyama, Lyndley and Samuel Schwab, and Nora and David Tezanos.

協力
全日空
ヤマハ株式会社のピアノは JS の公式ピアノです。
MetLife 「Meet-the-Artists」 レセプションは MetLife Foundation によりサポートされています。

プログラム特別支援

スペシャル・アーティスト・トーク：オペラ『班女』 は、Doug and Teresa Peterson から支援、
カタパルト歌劇団と NYU スカーボールから協力をいただいています。

『9000のペーパー・バールンズ』 は、Association of Performing Arts Professionals,
Made possible through support from The Andrew W. Mellon Foundation
および The Jim Henson Foundation より助成をいただいています。
本作品は2017年から2021年にかけて、HERE Artist Residency Program (HARP)により委嘱・開発され、

2021年秋にオンライン公演として初演を迎えました。

スペシャル・アーティスト・トーク：舞台版『となりのトトロ』を語るは、

Doug and Teresa Peterson から支援をいただいています。

Miranda Curtis CMG – Lead Production Supporter of *My Neighbour Totoro*

Headline Sponsor: Loewe

能：喜多流『皇帝』と『枕慈童』は、国際交流基金およびアーツカウンシル東京から助成をいただいています。

『note to a friend』は、東京文化会館との共同制作です。

Doug and Teresa Peterson から支援、国際交流基金より特別協力をいただいています。

その他の支援：

The New York State Council on the Arts

with the support of the Office of the Governor and the New York State Legislature

付記：

PROTOTYPE Festival 2023 参加作品

『AKUTAGAWA』は、アーツカウンシル東京および

公益財団法人大阪コミュニティ財団／匿名基金NO. 22 から助成をいただいています。

『わかろうとはおもっているけど』は、セゾン財団から助成をいただいています。